

校長室だより



真岡東中 校長室だより

No. 45

2018/05/02/Wed

八十八夜 緑茶の日

郵便貯金業務始まる	1875年
初の鉛筆工場生産開始	1886年
上野公園で日本初のメーデー	1920年
ソ連軍がベルリンを占拠	1945年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

4/27(金)…H30最初の授業参観・保護者会・総会 保護者の皆様…ご協力ありがとうございました ～総会あいさつ(要旨)～

ご出席いただき心より感謝申し上げます。新入生118名を迎え、330名の生徒たちと私たち教職員35名、計365名でH30がスタート！

郡市春季陸上競技大会 …男子総合3位、男女総合4位と好成績！結果以上に、そこまでのプロセスや大会に臨む態度がすばらしかった。春季各種大会での活躍も期待される。各部とも熱心に活動しているのでぜひ応援に来ていただきたい。

本校のすばらしところ …①素直に一生懸命に取り組む生徒。挨拶の声も日に日に大きくなり、行事も手抜きせず真剣。だからその姿に感動する。子どもは保護者の皆様の宝、地域の宝、そして学校の宝、財産。

②生徒・学校のことを考え協力を惜しまない保護者の皆様や地域の皆様。学校行事にも積極的に関わり一緒に感動してくれる皆様方に感謝…本校の二つ目の財産。

③姉妹校Goddard Middle Schoolとの国際交流。相互訪問が28年も続き、今年は受け入れの年で夏に来校。環境は人を作る…この環境で育ててこそその生徒たち。

④本校の教職員。一人一人も素晴らしいし、チームワークもいい。どの学校にも負けない、常に生徒と向き合う先生ばかり。何でも忌憚なく相談していただきたい。

H30学校経営方針 …子どもは学校だけでなく家庭や地域で育つ。子どものより良い成長のため学校と家庭と地域が心をつにし、何を目指し何を考えているかを知ることが必要。

①「教育目標」…本校教育の原点。

②「めざす学校像」…教育目標にある生徒を育てるにはこんな学校でありたいという願い。今年はAIをテーマに「高め合い、磨き合い、感動し合い、『愛』いっぱいの学校」。夢と希望に満ちた15の春を保証し、愛が実感できる教育活動を推進・展開していきたい。

③「めざす生徒像」…めざす学校像を実現のため、こんな生徒になってほしいという願い。

④「めざす教師像」…めざす生徒像に近づけるには、支援・指導する先生は高い力量が求められる。年度当初にこの教師像をめざすことで教師集団「チーム東」がスタート！

⑤「学校経営の方針」…6つの方針の下、特に今まで以上に「学力の向上」と、地域や保護者の皆様のご協力を得ながら「特色ある学校づくり」に力をいく。

⑥「子育て四訓」…家庭でご協力をお願いしたいこと…詳しくは資料参照。

ノーメディア・デー …ネットトラブル・事件は毎日報道されている。携帯・スマホは当然、学校へは持ち込み禁止。保護者の責任で使用している生徒がいるが、使い方の指導は学校にも限界がある。約束事を決める等、安易な使用によってトラブルに巻き込まれないよう

ご留意願いたい。本校は弁当の日をノーメディア・デーにしている。ある母親が、弁当の中身から、それを考えて作るお母さんの苦労話にまで話が進み、TVもつけず家族団欒になったことから提案された。小学校と連携して、携帯スマホなし・TVなしの日の推進に取り組んでいる。少しずつでも実践していただきたい。



班別で話し合い



意見発表

GWも3連休が終わり、後半4連休へ

『こどもの日』…祝日の意味も学習しよう！

◆「八十八夜」とは…？◆

野にも山にも若葉が薫る時期で、立春から数えて88日目のことを言います。気候が安定し、農家は各種の種まきの時期の目安としており、農作業が本格化します。茶どころでは、茶摘みの最盛期となり大忙しとなる時期です。また「八十八夜の別れ霜」といって、最晩霜の目安となる時期でもあり、これから本格的に暖かくなってきます。

次のような有名な句もあるので紹介します。

二三本の葱の坊主や別れ霜 高浜 虚子

本日5月2日は「八十八夜」…♪夏も近づく八十八夜…♪と口ずさみたくなる季節ですが「えっ！『八十八夜』ってなあに？」という中学生はいますか。「今日はどんな日か？」ということ学ぶのも大切な勉強です。5月5日は『こどもの日』であると同時に『立夏』でもあります。ちょうど季節の変わり目…健康にはくれぐれもご注意を！

さて、黄金週間の前半が終わってしまい、明日から後半の4連休です。去年は「なぜ祝日になっているか知っていますか」と「憲法記念日」について『校長室だより』(No.3)に掲載しました。今回は『こどもの日』に焦点を絞って考えてみましょう。

※ 5月5日=『こどもの日』

これは誰が考えなぜできたのでしょうか？

日本では古くから女子のための「雛祭り=3月3日」、男子のための「端午の節句=5月5日」が行われていました。1948年7月20日「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかるために」(『国民の祝日に関する法律』第十七条)で他の祝日とともに定められました。

こうして1949年5月5日、「男女を問わず、子どもの人格を重んじ子どもの幸福を祈るとともに、親子の愛情を大切にする」という目的で制定された『こどもの日』がスタートしたわけです。この日を中心に児童福祉週間が設けられています。なお、1954年10月には国際連合第9回総会でインドほか6か国の提案による「世界子どもの日」の設立が採択され、1956年から各国のそれぞれ適当な日を「世界子どもの日」とし世界の子どもたちの友情を育てることになりました。

日本では5月5日をこの日にあて、誰もが読めるようにと『こどもの日』としました。インドは11月14日、イギリスは3月の第1月曜日、アメリカは5月1日、中国は4月4日、ロシア・ポーランド・ハンガリーは6月1日。この他、1952年4月にオーストリアの首都ウィーンで開かれた「子どもを守る国際会議」では6月1日を「国際子どもデー」と定めて、全世界の子どもたちの連帯の日としてきました。

このように、子どもの権利を求める全世界の動向によって、1959年11月20日、国際連合総会では「子どもの権利宣言」を採択しました。以来全世界で「子どもの人権」を大切にする運動が高まってきたわけです。祝日によって「やったあ～！学校が休みだ！」という気持ちばかりでなく、それぞれの祝日の意味を考えていくのも大切です。

国民の祝日と言われる中には、それにふさわしくない日もあるかもしれません。これも学習の一つです。調べてみるのもおもしろいですよ。



親が見つめる授業参観



芳賀郡春季陸上競技大会(4/24) 名場面集